

読書チャレンジ・読書ノート表彰式と図書室まつり
本のイベントに多くの人が集まる

12月2日、中央公民館で本にちなんだイベントが開催されました。

「読書チャレンジ」表彰式では、52人の入賞者に表彰状が贈られました。読書チャレンジは、小学生・中学生を対象に読書感想文、感想画、ポップの3部門の作品を募集し、218人の応募がありました。また、これまで読んできた本の題名やひとこと感想を書き留めていく「読書ノート」の取り組みをした子にも、表彰状が贈られました。

表彰式後は、第23回図書室まつりが開催され、目玉の古本市には今年も多くの人々が詰めかけ、お菓子づくりでは、桃太郎のお話にちなんできびだんごにチャレンジ。他にも小物づくりやブックカバー掛け体験などが、実行委員会によるボランティアの運営で行われました。



▶読書チャレンジ読書ノートの表彰式で、教育長から表彰される児童生徒たち

▶図書室まつりの古本市は今年も大盛況

社会福祉協議会が全国受賞
あんしん生活サポートセンター
「ほっと」の活動が評価を受ける

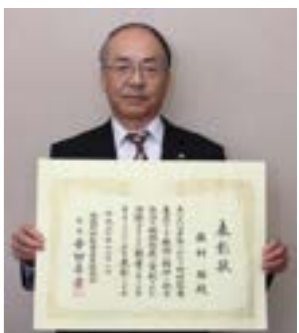
津別町社会福祉協議会（原田英機会長）が、平成30年度の全国社会福祉協議会会長表彰を初受賞しました。

この賞は、過去3年以上高齢者や障がい者、児童等を対象とした活動を行っている社会福祉協議会を対象に表彰するものです。町から受託している「津別町あんしん生活サポートセンター（愛称・ほっと）」の活動が評価されている受賞となりました。ほっとの活動は、成年後見制度の相談・申し立ての支援、市民後見人の養成・指導等ですが、それらにとどまらず、生活困窮者やひきこもり者支援など、町民との協働による幅広い権利擁護にも及んでいます。

今回、同賞を受賞したのは全国で38団体、北海道からは津別町が唯一となりました。



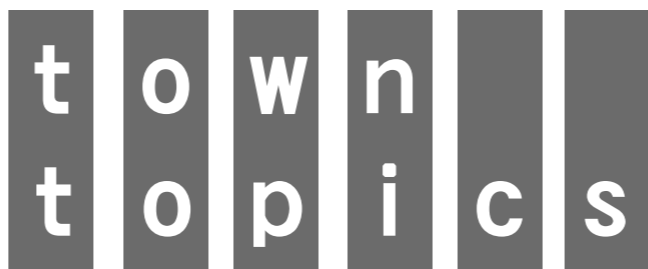
受賞に際し原田会長（写真）は、「一緒に活動してくれている住民の方々とともにいたいただいものと考えています。うれしい反面、これからはみんなが安心して生活できるよう、福祉の原点に立ち返って活動をしていきたいと思えます」と述べていました。



町監査委員の藤村氏が全国表彰
長年の功労が認められる

町監査委員の藤村勝氏が、このたび全国町村監査委員協議会より、功労者として表彰を受けました。

現在まで7年間にわたり町村の監査委員を勤め、監査事務に尽力、自治の振興発展に貢献してきた功績を認められ、表彰されたものです。



まちのわだい

地域活性化への貢献が認められ
クマヤキが「むらの宝」に選ばれる

内閣府及び農林水産省が実施する「北海道地区『ディスプレイ農山漁村の宝』」に、クマヤキによる地域活性化が選ばれ、12月14日、農林水産省より選定証が授与されました。

「この当地スイーツとして津別町の知名度アップに貢献していることなどが認められ、他の6市町とともに選ばれました。授与式では、クマヤキを販売する（株）



▶向かって左から竹俣副町長、佐藤町長、農林水産省地方参事官

相生振興公社社長の竹俣副町長が、農林水産省より選定証を受領。新たな製造販売施設「クマヤキハウス」のオープン（1月12日から）に花を添える認定となりました。

高齢者施設等へのクリスマスプレゼント
コカ・コーラが飲料水を社会福祉協議会に寄贈



北海道コカ・コーラボトリング（株）が、社会福祉協議会に清涼飲料水を寄贈しました。主に高齢者施設の入居者へのクリスマスプレゼントとして、毎年寄贈されているもので、今年は麦茶やお茶、炭酸飲料など20ケース分が贈られました。贈呈式は12月6日、社会福祉協議会で行われ、原田英機会長（写真向かって左）が受け取りました。寄贈された飲料水は、社会福祉協議会を通じて町内の高齢者施設等に配布されました。

誤射の悲劇は起こさない
猟友会が安全講習会を実施

昨年11月に恵庭市で起こった、エゾシカ猟での誤射で人が撃たれ亡くなるという事故を受けて、北海道猟友会津別支部（石原薫支部長）が急ぎよ安全狩猟講習会を実施し、会員に啓発と指導を行いました。

12月14日に開催されたこの席において、年内の狩猟は公的機関から要請されたもの以外は自粛すること、国有林へは1月15日まで入林自粛、16日以降今年度いっぱい入林禁止となることが確認されました。その後、法の遵守や猟銃の取り扱いについての講習が行われ、会員らは狩猟事故防止の決意を新たにしています。



地域おこし協力隊の
「ほっと」の活動が評価を受ける

地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと感じたことをつづります。

62 アイラブ津別！



田畑久美子
2016年に地域おこし協力隊BoFdkプロデューサーとして着任。現在は卒業後の自立に向けて奮闘中。

3年間の協力隊任期も満期に近づいてまいりました。思い返してみると、任期中は様々なお仕事や新鮮な経験をさせていただきました。その中でも一番印象的な出来事は、津別町のふるさと納税カタログを制作する際に、町内の生産者の方々に取材させていただいたことでした。酪農、農業、林業木材、食品生産、観光業などに携わる方たちが、普段はめったに口に出されない苦労話や地域活性化へのひたむきな思いなども語ってくださいました。

町民の方たちは協力隊が来るずっと以前から、それぞれの形で地道に地域おこしを長年続けていらしたのだ、とその郷土愛に深く感動したことでした。地域おこしの活動にはいろいろな

形がありますが、その根っこには全て「地域への愛」があるのだと改めて気付いた出来事でした。私自身、3年間の相生での生活の中で、「移住先が津別町で本当によかった」と心から思えるような出来事や人との出会いがたくさんあり、これからは一住民として、津別町にラブコールを送り続けながら、この地に根を張って生きていきたいと思っています。

これも津別町に住むきっかけを作ってくださいました西重成さんや、津別町役場の皆さま、いつも優しく見守ってくださいる町内の皆さまのおかげに他ならないと感じています。この場をお借りして心から感謝申し上げます。引き続きどうぞよろしくお願いたします。

